

冬のワークショップを終えて

@札幌市立明園中学校



1月12日(金)、明園中学校にて冬のワークショップを開催しました。篠路西中学校の八木拓平先生が、中学3年生向けに、『聞き手を意識して、英語で自分の考えを述べるができる』というねらいの下、ディベート活動の下地をつくる模擬授業を行なってくださいました。今回は先生方が対象ということで、『AI technology should be improved more, or not.』という少々難易度の高いトピックでした。まずは個人でマインドマップを用いてブレインストーミングを行い、その後ペア・グループ活動を通して意見交流をした上で、グループで意見をまとめ発表しました。授業後の話し合いでは、「今後ますます重要性が高まるディベートに挑戦していたのが良く、テーマも面白かった」、「アプリや画像の視覚教材を活用することで興味を惹きつけ、意見を考えるための足掛かりとしていた」、「聞き手を意識して考えを述べるというねらいを、相手に納得してもらうように意見を述べる等の表現に変えることで、より明確なねらいになるのではないかなど、様々な意見が出されました。

その後、日頃の授業で悩んでいることを交流し、互いの実践を伝え合うことでアイデアを共有し、学び合うことができました。

最後に札幌中学校の西村春樹校長先生と明園中学校の中村邦彦校長先生からご講評をいただきました。西村校長先生からは、英語を学ぶことで得られる楽しさや喜びを生徒に感じてもらうために、様々な工夫をすることの重要性や小学校との連携についてお話をいただきました。中村校長先生からは、これから求められる授業の具体例として、インタラクション力を高める活動例、進歩の実感がわかる活動例、協働学習のアイデア、英語は楽しいと思えるようなねらいの設定方法、教科書本文を用いたリテリング活動例についてスライドを用いながらお話をいただきました。

これからの授業作りへのヒントをたくさん得ることができ、大変有意義な時間となりました。

〈授業者の八木拓平先生〉



〈模擬授業と話し合いの様子〉



【参加者のアンケートより】

1. 今日の模擬授業から学んだこと、今後の授業に活かそうなこと

- ・ディベートを普段の授業に取り入れるためのヒントを学ぶことができました。自分でテーマを工夫してぜひやってみたいと思います。
- ・どんな活動を行うにしても、ゴールを明確にさせておくことが大切なのだということが分かりました。
- ・ディベートやディスカッションに挑戦してみたい。
- ・経験豊富な先生方と話し合いをすることができ、知識や理解が深まりました。ありがとうございました。

2. それ以外で学んだことや、今後に生かせそうなヒント

- ・2回目のディスカッションで、本文の導入、内容の取り扱いについて大変よく学ぶことができました。なるべく実物を見せるなどの工夫をして導入をし、自分の考えを英語で書くなどの活動もいろいろと取り入れていきたいです。
- ・Warm-upについて、特に small talk を授業に取り入れるアイデアをいただきました。

3. 本日の感想

- ・たくさんのアイデアを得ることができました。ありがとうございました。
- ・生徒が“わかる”“たのしい”と思える授業のヒントがたくさんありました。ありがとうございました。



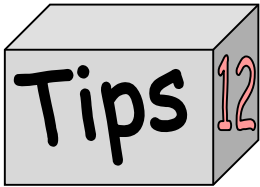
第38回全道中学校英語暗唱大会



11月19日(日)、札幌市教育文化会館において、第38回全道中学校英語暗唱大会が開催されました。どの発表も素晴らしく、大変レベルの高い大会となりました。来年度も、地区大会を含めてよりよい英語暗唱大会となるよう願っております。

〈結果報告〉

1位	吉村 磨己	札幌開成中等教育学校(札幌地区)	"After Twenty Years"
2位	岡田 響	北斗市立大野中学校(渡島地区)	"The Green Door"
3位	本堂 竣哉	北見市立端野中学校(オホーツク地区)	"Eigo Rakugo"
4位	須田 香音	帯広市立翔陽中学校(十勝地区)	"The Carpenter's Gift"
5位	大野 汐凪	斜里町立知床ウトロ学校(オホーツク地区)	"After Twenty Years"
6位	長山 姫奈	岩見沢市立清園中学校(空知地区)	"A Mother's Lullaby"



会員の方々の

日常の授業実践をご紹介します

「Tips」第12回

札幌市立八条中学校 大谷尚弘先生

大谷先生の実践をご紹介します！

学んだ英語を使って、「自分の考えを表現する楽しさ」、「相手と伝え合えた時の喜び」を生徒自身が実感できる活動のご紹介です。オリジナルの対話を通して、思いを理解しあうことで、楽しみながら互いに学びあうことができます。

【実践例① Warm-up に“Small Talk”を！】

様々なテーマに沿って、ペアで1分間会話を続けます。文の正確さは問わず、会話を途切れずに続けること、相手の言ったことに反応したり会話の内容を掘り下げたりすることに重点をおきます。右の図は2年生向けのもので、自分の目標や自己評価をワークシートに記録します。3年生では、(前年度の経験で、活動の目的がわかっている)のであえてワークシートを用意せず、より即興性を高めた会話を目指します。

この活動を通して、授業への興味関心を高める Warm-up の効果に加え、「英語を話す(そして間違ふ)ことは恥ずかしいことではない」ということを生徒自身が実感できたように思います。また、英語を不得意とする生徒でも、単語だけで会話しようと試み、「相手に伝えることができた」という成功体験を積み重ねることができました。

1. Small Talk

Theme: <i>Christmas & New Year Holidays</i>	Achievement: A · B · C
My Goal: ()	

【Hint】

- What did you do? → 何したの?
- What do you want~? → 何が欲しい?
- ↳ What do you want to eat? → 何を食いたい?
- Could you tell me more? → もっと教えて。
- I will ~ → ~するつもりです。

3. My Dialog

設定:()
メンバー:()

A: _____

B: _____

A: _____

B: _____

A: _____

B: _____

※どこかに必ず今回の Target Grammar を入れること。

発表者は2人、隣の1人はナレーターです。(ナレーターの人はDialogを傍の人が自由に聞き流して大丈夫です。)

【実践例②“Basic Dialog”をオリジナルで作る活動】

“Basic Dialog”に出てくる短い対話文が、どういう背景の2人で何についての対話なのか、ということを生徒と一緒に考えたことから始まった活動です。左の図のように、全て空白でヒントなしで行うと自由度が高すぎて、難しくなったり時間がかかりすぎたりするため、①の“Small Talk”と同じテーマで行ったり、「このような文を入れよう」と提示することもあります。

どちらの活動も、評価が難しい部分がありますが、学んだ英語を使って「何ができるのか」「どういう場面で使えるのか」ということを理解するのに効果的だと考えています。

